

「比べて読む」というと、銘柄の異なる新聞同士を比べるイメージが強いかと思います。比べて読むのは、新聞そのものの特徴を知る、事実を確認する、より深く・より広く事実を知る、新聞社の方針を知る……などのためです。

- ① 共通点を探す……銘柄の異なる新聞を比べて共通点を探すと、新聞という媒体の特徴が分かってきます。朝日小学生新聞と朝日新聞(=大人の新聞)で共通する部分を集めると、新聞とはどのようなものかが小学生にも理解できるでしょう。
- ② 同じ事件・事故を扱った記事を比べる……共通する内容と異なる記述のところがあります。3紙以上の新聞に共通する内容は事実といってよさそうですが、各紙が異なる記述を内容しているような箇所では、事実があいまいなことを意味するでしょう。事実を確かめたり、より深く・広く知ったりするためには、比べて読むことが大切です。そのためには、日頃から複数紙に目を通す必要があります。大きな事件・事故があったような時には、スタンド売りの各紙の購入を勧めます。
- ③ 新聞による重点記事やスタンスの違い
 - ・ 政治、経済、教育、国際、家庭、社会などの記事にどれだけの紙面を割いているかという点や、憲法記念日や建国記念の日の社説、大きな選挙の結果の見出しなどからは、新聞社のスタンスが分かります。同じ内容を取り上げている社説を比べるだけではなく、多くの新聞で取り上げているのにある新聞だけにはない、あるいはその逆なども、新聞社の方針を知る上で役立ちます。
 - ・ テレビ面は多くの新聞で最終面に置かれていますが、そうでない新聞もあります。なぜ最終面に置いているのか、そうしないのかを考えさせます。朝日、毎日、読売などのテレビ面を比べてみましょう。どんなことが分かるでしょうか。
 - ・ 広告の違いは読者層の違いに大きく関係します。日経と他の全国紙を比べると違いは歴然としています。また、同じ旅行会社の同じパック旅行の広告でも、旅行代金が異なることもあります。

複数紙を比べて読むことは、大切なことであるし、たいへん面白いことでもあります。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)